学生団体 畑っこ

門傳みこ（環境人間学部 環境デザイン系２回生）

キーワード：農業，多世代交流，地域交流

１．団体概要

畑っこは，環境人間キャンパス内にある畑で毎週水曜日に活動している。「農を楽しむ」をコンセプトに，在来種の保存も目指しながら，地域の方々とたくさんの野菜，果物を育てている。旬の野菜を収穫し，みんなでおいしい調理方法を共有している。畝(うね)を作るところから，調理し，食べるところまで，食の一連の流れを体験することができる。現在は２回生７人，１回生 15 人の計 22 人で活動している。

２．2022 年度の活動について

毎週水曜日に畝づくり，種まき，草引き，水やり，収穫を主に行っている。また，今年は収穫した野菜を使って，調理会を２度行った。

ほとんどのメンバーが今年から加入したため，畝の作り方，種をまく間隔，水やりの頻度など，わからないことが多く，地域の方々に助けていただきながら活動を行った。

今年度は，ユウガオ・つるくびかぼちゃ・はやとうりなどの在来種の栽培や，田植え，干し柿づくりなど，様々な活動をすることができた。その中でも最も印象に残っていることは，かんぴょうを一から作ったことである。かんぴょうは，ユウガオというウリ科の植物を紐上に剥き，乾燥させたものである。ユウガオは１つ 6～10kg ほどの大きさがある。6 月ごろに苗を植え付け，８月に収穫をし，それから専用の器具を用いて紐上に剥き，乾燥させ，調理を行った。このようにかんぴょうになるまでに大変な手間がかかっていることを学んだ。初めての経験ばかりで，難しいことも多かったが，食べ物が自分の食卓にくるまでの過程を学ぶことができ，貴重な体験をすることができた。

１月には，環境人間学部の学生，先生方，職員さんにつるくびかぼちゃを配布した。今年はつるくびかぼちゃを豊富に収穫することができ，畑っこの中で消費することが困難になったため，この活動を行った。つるくびかぼちゃが在来種であることや，在来種を守ることの必要性をポスターにし，伝えることで環境人間学部の学生に在来種について知ってもらうことができた。

表１． 2022 年度の活動

4 月	レモン，みかんの植え付け
5 月	こんにゃく芋，夏野菜の植え付け
6 月	かんぴょうの植え付け，夏野菜収穫，田植え
7 月	スイカ収穫，調理会①
8 月	かんぴょう収穫
9 月	ごまの収穫
10 月	冬野菜の植え付け，稲刈り，干し柿づくり
11 月	脱穀，調理会②
12 月	冬野菜収穫

(出所)執筆者作成

写真１ 調理会の様子
(出所)学生団体畑っこ

３．活動を通して学んだこと

活動を通して，野菜を育てる楽しさ，大変さ，そして育てた野菜を味わうことの嬉しさを学んだ。種や苗の状態から，水やりや草引きをして育て，小さな実ができ，それが食べられる状態になるまでを見ることができることがとても大きな学びを生み出していると思う。また，今年は，レモンやみかん，メロン，しいたけなど植えたのに育たなかったものもあり，植物によって，水やりの頻度を変えたり，肥料の撒き方を工夫しなければいけないことも学んだ。また，キュウリなどの夏野菜はかなりの量を収穫することができたが，大きすぎたり，形が変形してしまったものもあったため，それを改善するにはどうしたらよいかなど，ただ育てるだけではなく，野菜について詳しく考えることができた。

４．今後の展望

2022 年度は，学生と地域の方で野菜を栽培していくことが中心だったが，今後は地域の子どもたちにも野菜を好きになってもらうために交流を行いたいと考えている。そのためには，自分たちが野菜についてもっと知ること，興味を持つことが必要だと考える。そして，自分たちの知識で子どもたちに魅力を伝えることで，達成感も生まれると考える。

まだまだ畑っこの活動を知らない人が多いと思うので，キャンパス内に畑があることや，無農薬で在来種保存に努めていることを知ってもらうために，学校祭への出展や野菜の配布活動などをして，畑っこと在来種の PR を進めていきたい。

写真２　かんぴょうを剝いている様子
(出所)学生団体畑っこ

写真３ つるくびかぼちゃと坊ちゃんかぼちゃ
(出所)学生団体畑っこ